

令和七年度 東京純心大学 看護学部 看護学科

学校推薦型選抜試験（第一回）【小論文】

試験問題

試験時間 90分

注意事項

- ・ 解答は、解答用紙に記入すること。
- ・ 問題用紙及び下書用紙は、試験終了後回収する。

受験番号

令和6年11月10日

以下の文を読み、設問に答えなさい。

長男光が、知的な障害を持っていること、そして私ら家族が、かれの作る音楽を楽しむに、なんとか静かに暮らしてきたことは、たびたび書きました。なんとかというのは、次つぎに困難は起り、かつ乗り越えられたからです。

今年の初めから、私と光は毎日一時間の歩行訓練をしています。私らの住んでいるところは高台の突端に近い場所で、平地に降りて行く長い坂に柵で囲った遊歩道路がついており、平地に降りつくと、川にそって同じく遊歩道路が続いているのです。

*

光は四十二歳で、成人病の幾つかの現れを注意されています。そこで肥満を考えて、私と二人、歩くことを思い立ったわけです。しかもそれは、基本的な歩行の訓練でもあります。

かれには視覚の障害もあり、走ることはできませんし、足にも軽度ながら問題があります。そこで電車に乗ったりコンサートに行ったりする際は、つねに私か家内が腕をとってきました。

それを、光の自立した歩行にしてゆく、というのが素人考えの歩行訓練のプランです。腕を支えず、ただ脇について歩く。靴で地面をこすりながら歩く癖を少なくとも軽くするために、そのことと連動しているらしい、両腕を動かして歩くようにさせる。

それをどう進めるか考えているうちに水泳クラブのコーチの友人から、樹脂製の、重さのある棒を世話をもらいました。それを手に握って歩くことで、腕を振るようになり、足も地面から離れるようになる。実際、数日の練習でその通りになり、光はそうした進歩を励みにして、毎日、進んで訓練をすることになったのです。

知的な障害とはまた別に、まじめな性格の光は、歩行訓練をする間、しゃべりません。私も、読んでいる本のことを思い出したりしています。

足を高くあげない光は、つまずきやすいし、てんかんの小さな発作を起こすことがあります。後の場合、抱きとめておいて、地面に座らせることができれば五分ほどじっとしています。その間、周りから声をかけられることがあっても、光の頭を支えている私は応答できません。それが相手をムツとさせることは幾度となくありました。

さて、今度の歩行訓練で、私がつい頭のなかの散漫な思いにとりつかれている時、転っていた石に足をとられて、光がボタンと倒れたのです。てんかんの発作ではなく、意識がはっきりしているので、かえって気持ちを動転させています。自分の失敗を責めてもいるようです。

私にできることは、自分よりずっと重い光の upper body を抱え起こし、遊歩道路の柵まで寄らせて、頭を打たなかったかどうか調べるくらいですが、私ら二人のモタモタした動きは頼りなく見えたにちがいません。

自転車です。やって来た壮年の婦人が跳び降りると、――大丈夫？ と声をかけながら光の肩に手をあてられました。光がもともと望まないことは、見知らぬ人に身体をさわられるのと犬に吠えられるのとです。こういう時、私は自分が十分に粗野な老人であることは承知の上で、しばらくほうって置いていただくよう強いています。

その方が、憤慨して立ち去られた後、私はある距離を置いてやはり自転車をとめ、こちらをじっと見ている高校生らしい少女に気付きました。彼女はポケットからケータイをのぞかせて、しかしそれを出すというのじゃなく、ちよつと私に示すようにしただけで、注意深くこちらを見えています。

光が立ち上り、私とその脇を歩きながら振り返ると、少女は会釈して、軽がると自転車走らせて行きました。私にとどいたメッセージは、自分はこのであなたたちを見守っている、救急車なり家族なりへの連絡が必要なら、ケータイで協力する、という呼びかけでした。私らが歩き出すのを見ての、微笑した会釈を忘れません。

*

さきの大戦の終わりに抗独戦線に参加している一人として死んだ、フランスの哲学者シモーヌ・ヴェイユの、不幸な人間に対して注意深くあり、——どこかお苦しいのですか？ と問いかける力を持つかどうか、人間らしい資質がかかっている、という言葉に私は惹かれていきます。

ヴェイユの不幸な人間の定義は独特ですが、突然の転倒に動揺している私らも、この場では不幸な人間です。こちらが受け入れられないほど積極的な善意を示してくださった婦人も、ヴェイユの評価する人間らしさの持ち主です。むしろこういう時にも自分にこだわる（そこから解放をヴェイユは説くのもあります）私を変えねばなりません。

その上で、不幸な人間への好奇心だけ盛んな社会で、私はあの少女の注意深くかつ節度もある振る舞いに、生活になじんだ新しい人間らしさを見出す気がします。好奇心は誰にもありますが、注意深い目がそれを純化するのです。

(作家)

出典 大江健三郎「注意深いまなざしと好奇心 節度ある 新しい人間らしさ」『朝日新聞』二〇〇六年四月一八日〈定義集〉による

設問

著者の主張を踏まえ、それに対するあなたの考えについて、具体的な経験や例を示しながら一〇〇〇字以内で論じなさい。